

誨ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十一條 病監又ハ獨居監房ニ拘禁スル受刑者及ヒ刑事被告人ニハ其居所ニ就キ教誨ヲ爲スコシ

第八十二條 受刑者父母ノ計ニ接シ就業ヲ免セラレタルトキハ之ヲ獨居拘禁ニ付シ毎日教誨ヲ爲スコシ

前項ノ場合ニ於テハ本人ノ希望ニ因リ其亡父母ノ爲メ讀經ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十三條 恩赦、假出獄若クハ假出場ノ申渡ヲ爲シ又ハ賞表ヲ付與スルトキハ其式場ニ受刑者ノ全部又ハ一部ヲ集メテ教誨ヲ爲スコシ

第八十四條 受刑者死亡シタルトキハ本人ト緣故アル受刑者ヲ集メ棺前ニ於テ教誨ヲ爲スコシ

第八十五條 監獄法第三十條ニ依リ教育ヲ施ス受刑者ニハ毎日四時間以內小學程度ニ依リ修身、讀書、算術、習字其他必要ノ學科ヲ教授ス可シ

前項ノ受刑者ニシテ小學科程ヲ卒業シタルモノ又ハ之ト同等ノ學力アルモノニハ其教育ノ程度ニ應ジ毎日二時間以內相當ノ補習學科ヲ教授ス可シ

第八十六條 文書圖書ノ閱讀ハ監獄ノ紀律ニ害ナキモノニ限り之ヲ許ス

新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノハ其閱讀ヲ許サス

第八十七條 雜居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ同時ニ三箇以上ノ文書圖書ヲ閱讀セシムルコトヲ得ス但字書ハ必要ニ因リ其冊數ヲ増加スルコトヲ得

第八十八條 獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニハ情狀ニ因リ其監房內ニ

於テ自辨ニ係ル筆墨紙ノ使用ヲ許スコトヲ得

第七章 給養

第八十九條 在監者ノ使用ニ供スル衣類器具及ヒ雜具ノ品目ハ左ノ如シ

- 衣類
 - 一 單衣
 - 二 袴
 - 三 綿入
 - 四 襪衣
 - 五 帶
 - 六 襪
 - 七 股引
 - 器具
 - 一 蒲團又ハ毛布
 - 二 敷布
 - 三 枕
 - 四 蚊帳
 - 雜具
 - 一 手巾
 - 二 雨具
 - 三 冠物
 - 四 履物
 - 五 齒磨楊枝
- 股引又ハ前垂ハ作業ニ就ク者ニ限り之ヲ交付ス

用紙及齒磨粉又ハ齒磨用食鹽ハ之ヲ給與ス

典獄ニ於テ必要アリト認ムルトキハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ雜具ノ品目ヲ増加スルコトヲ得

第九十條 在監者ノ使用ニ供スル衣類器具及ヒ雜具ノ數ハ一人ニ付キ一箇トス但蚊帳ハ此限ニ在ラス

作業ニ就ク者ニハ之ニ作業衣一組ヲ交付ス

用紙及ヒ齒磨粉又ハ齒磨用食鹽ノ數量ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ定ム

病者ノ使用ニ供スル衣類器具及ヒ雜具ノ數ハ必要ニ因リ之ヲ増減スルコトヲ得

已ムコトヲ得サル事情アルトキハ典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ第一項及ヒ第二項ニ定メタル箇數ヲ増減スルコトヲ得

第九十一條 受刑者ニ著用セシムル衣類ハ青色トス

左ニ掲グル衣類器具ハ淺藍色トス

一 刑事被告人ニ貸與スル衣類

二 勞役場留置ノ言渡ヲ受ケタル者ニ貸與スル衣類

三 十八歳未満ノ受刑者ニ著用セシムル衣類

四 處遇上必要アリト認メタル受刑者ニ著用セシムル衣類

五 蒲團

第九十二條 自辨ノ衣類器具ハ時季ニ適シ且ツ監獄ノ紀律及ヒ衛生ニ害ナキ物ニ限ル

第九十三條 自辨ノ衣類器具ノ品目及箇數ハ典獄之ヲ定ム

自辨ノ衣類器具ハ時々之ヲ交換、補綴又ハ澀濯セシム可シ

監獄ニ於テ自辨ノ衣類器具ヲ補綴又ハ澀濯シタルトキハ其費用ハ本人

ノ負擔トス

第九十四條 在監者ニ給與スル糧食ノ種類及ヒ分量ハ左ノ如シ

- 一 飯 下白米十分ノ四
- 二 菜 十分ノ六
- 一 一人一回三合以下
- 二 一人一日五錢以下

地方ノ狀況若クハ物價ノ高低ニ因リ又ハ在監者ノ健康保全ノ爲メ必要アルトキハ典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ糧食ノ種類ヲ變更スルコトヲ得

作業ノ種類ニ因リ必要アルトキハ典獄ハ司法大臣ノ認可ヲ受ケ飯ノ分量ヲ増加スルコトヲ得

第九十五條 在監者ニ給與スル飲料ハ白湯ヲ用ウ但必要アルトキハ麥湯又ハ茶ヲ用ウルコトヲ得

第九十六條 在監者ニハ酒類又ハ煙草ヲ用ウルコトヲ許サス

第九十七條 病者ノ糧食及ヒ飲料ハ典獄ニ於テ適宜之ヲ定ムルコトヲ得

第九十八條 自辨糧食ノ種類及ヒ分量ハ典獄之ヲ定ム

第九十九條 自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者不正ノ行爲アリト認ムルトキハ典獄ハ其者ノ出入ヲ禁止ス可シ

典獄ハ必要ニ因リ自辨糧食ノ販賣又ハ取扱ヲ爲ス者ヲ指名スルコトヲ得

第一百條 自辨糧食ハ監獄官吏立會ノ上監獄醫其検査ヲ爲スコシ

第一百一條 雜居拘禁ニ付セラレタル者ノ自辨糧食ハ成ル可ク一定ノ場所ニ於テ之ヲ用井シム可シ

第八章 衛生及ヒ醫療

第一百二條 監獄ニ於テハ清潔ヲ旨トシ衣類器具及ヒ雜具ハ期限ヲ定メ蒸汽其他適當ノ方法ヲ用井テ之ヲ清淨ナラシム可シ

第二編 裁判、監獄 第二章 監獄

第三百三條 受刑者ノ頭髮ハ少クトモ一月毎ニ一回、鬚髯ハ少クトモ十日毎ニ一回之ヲ剪剃セシム可シ但特別ノ事情アル者ニ付テハ此限ニ在ラズ

婦女ノ頭髮ハ必要アル場合ヲ除ク外之ヲ剪剃セシムルコトヲ得ス

第三百四條 頭髮鬚髯ヲ剪剃セシメサル場合ニ於テハ常ニ之ヲ梳理セシム可シ

婦女ニハ香油ノ使用ヲ許スコトヲ得

第三百五條 在監者ノ入浴ノ度數ハ作業ノ種類及ヒ其他ノ事情ヲ斟酌シテ典獄之ヲ定ム但六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一回、十月ヨリ五月マテハ七日毎ニ一回ヲ下ルコトヲ得ス

第三百六條 在監者ニハ雨天ノ外毎日三十分以内戶外ニ於テ運動ヲ爲サシム可シ但作業ノ種類ニ因リ運動ノ必要ナシト認ム可キ者ニ付テハ此限ニ在ラス

前項ノ運動時間ハ獨居拘禁ニ付セラレタル者ニ限リ一時間以内ニ伸長スルコトヲ得

受刑者ニハ戶外運動トシテ體操ヲ爲サシムルコトヲ得

第三百七條 獨居拘禁ニ付セラレタル在監者ニシテ十八歳未満ノモノハ少クトモ三十日毎ニ一回、其他ノモノハ少クトモ三月毎ニ一回、雜居拘禁ニ付セラレタル受刑者ニシテ刑期一年以上ノモノハ少クトモ六月毎ニ一回監獄醫ヲシテ健康診斷ヲ爲サシム可シ

第三百八條 十八歳未満ノ者ハ其他ノ者ト治療ノ時間及ヒ病監ニ於ケル居室ヲ別ニス可シ

第三百九條 獨居拘禁ニ付セラレタル者疾病ニ罹リタルトキハ病監ニ移ス必要アル場合ヲ除ク外其監房ニ於テ治療セシメ病監ニ移シタルトキハ

成ルヘク病監内ノ獨居監房ニ拘禁ス可シ

第三百十條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ嚴ニシ流行地ヲ發シ又其地方ヲ經過シタル入監者ハ一週日以上前ノ者ト離隔シ其携帶物ニハ消毒方法ヲ行フ可シ

第三百十一條 傳染病豫防ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ在監者ニ種痘又ハ血清注射ヲ施スコトヲ得

第三百十二條 傳染病流行ノ際ニハ飲食物ノ差入及ヒ購求ヲ停止スルコトヲ得

第三百十三條 在監者傳染病ニ罹リタルトキハ直ニ之ヲ離隔シ嚴ニ消毒方法ヲ行ヒ其狀況ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ監獄所在地ノ市町村役場及ヒ警察官署ニ其事實ヲ通報ス可シ

第三百十四條 監獄法第四十三條ニ依リ在監者ヲ病院ニ移送ス可キトキハ典獄ハ監獄醫ノ診斷書及ヒ移送ス可キ病院トノ協議書ヲ添ヘ司法大臣ノ認可ヲ受ク可シ

第三百十五條 在監者ヲ病院ニ移送シタルトキハ典獄ハ監獄官吏ヲシテ毎日其狀況ヲ觀察セシム可シ

第三百十六條 病院ニ移送シタル者在院ノ必要ナキニ至リタルトキハ典獄ハ速ニ之ヲ還送セシメ司法大臣ニ其旨ヲ申報ス可シ

第三百十七條 治療ノ爲メ特ニ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄醫ニ非サル師ヲシテ治療ヲ補助セシムルコトヲ得

分娩ノ際必要アリト認ムルトキハ典獄ハ產婆ヲ付スルコトヲ得

第三百十八條 在監者ノ疾病危篤ナルトキハ其旨ヲ本人ノ家族又ハ親族ニ通知シ刑事被告人ナルトキハ仍ホ檢事ニ通報ス可シ

第十九條 妊婦ハ受胎後七月以上ノ者產婦ハ分娩後一月ヲ經過セサル者ニ限リ之ヲ病者ニ準スルコトヲ得

第九章 接見及ヒ信書

第二十條 十四歳未満ノ者ニハ在監者ト接見ヲ爲スコトヲ許サス

第二十一條 接見ノ時間ハ三十分以内トス但辯護人トノ接見ハ此限ニ在ラス

第二十二條 接見ハ執務時間内ニ非サレハ之ヲ許サス

第二十三條 接見ノ度數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ一回、禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ一回、懲役囚ニ付テハ二月毎ニ一回トス

第二十四條 典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前四條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第二十五條 在監者ニ接見セントコトヲ請フ者アルトキハ其氏名、身分、職業、住所、年齢、在監者トノ續柄及ヒ面談ノ要旨ヲ聞取り許可ヲ與ヘタル者ニ接見心得事項ヲ告知ス可シ

接見セントコトヲ請フ者辯護人ナルトキハ其氏名、職業及ヒ住所ノミヲ聞取り裁判所ノ允許ヲ得テ辯護人ト爲リタル者ニハ仍ホ其旨ヲ證明セシム可シ

第二十六條 接見ハ接見室ニ於テ之ヲ爲サシム可シ

在監者疾病ノ爲メ接見室ニ赴クコト能ハサルトキハ其居所ニ於テ接見ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條 接見ニハ監獄官吏之ニ立會フ可シ

第二十八條 外國語ハ典獄ノ許可アルニ非サレハ接見ノ際之ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十九條 受刑者ノ發受スル信書ノ數ハ拘留囚ニ付テハ十日毎ニ各

第二編 裁判、監獄 第二章 監獄

一通、禁錮囚ニ付テハ一月毎ニ各一通懲役囚ニ付テハ二月毎ニ各一通ヲ超ユルコトヲ得ス

典獄ニ於テ已ムコトヲ得サル事情アリト認ムルトキハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第三十條 在監者ノ發受スル信書ハ典獄之ヲ檢閱ス可シ

發信又ハ封緘ヲ爲サシテ之ヲ典獄ニ差出サシメ受信ハ典獄之ヲ開拔シ檢印ヲ捺捺ス可シ

第三十一條 外國文ヲ用井タル信書ハ檢閱ノ爲メ在監者ノ費用ヲ以テ之ヲ翻譯セシムルコトヲ得

在監者前項ノ費用ヲ負擔スル資力ナク又ハ其負擔ヲ背セサルトキハ信書ノ發受ヲ許ササルコトヲ得

第三十二條 受刑者ノ發送スル信書ハ急速ヲ要スル場合ヲ除ク外日曜日、休業日又ハ休憩時間内ニ非サレハ之ヲ作成セシムルコトヲ得ス

第三十三條 在監者信書ヲ自書スルコト能ハサルトキハ本人ノ求ニ因リ監獄官吏之ヲ代書ス可シ

第三十四條 在監者ノ發送スル信書ノ郵便稅ハ自辨トス裁判所其他公務所ニ對シ返信ヲ要スル場合ニ於テ郵便稅ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ支辨ス可シ

第三十五條 在監者ニ交付シタル信書及ヒ其他ノ文書ハ必要ニ因リ十日以内本人ノ手ニ留置セシムルコトヲ得

第三十六條 信書ノ檢閱、發送及ヒ交付ノ手續ハ成ル可ク速ニ之ヲ爲ス可シ

第三十七條 信書ノ發送、交付及ヒ廢棄ノ年月日ハ之ヲ本人ノ身分帳

簿記載ス可シ

第三百三十八條 第二百二十九條ニ定メタル程度數ヲ超エタル信書ニシテ發信

ニ係ルモノハ直ニ之ヲ本人ニ返付シ其受信ニ係ルモノハ假リニ身分帳簿ニ添付シ置キ次ノ期間ニ於テ順次之ヲ本人ニ交付ス可シ

監獄法第四十七條第一項ニ依リ發受ヲ許ササル信書ハ身分帳簿ニ添付シ置キ廢棄ス可キモノヲ除外釋放ノ際之ヲ本人ニ交付ス可シ

第三百三十九條 接見ノ立會及ヒ信書ノ檢閱ノ際行刑上參考ト爲ル可キ事項ヲ發見シタルトキハ其要旨ヲ本人ノ身分帳簿ニ記載ス可シ

第十章 領置

第四百十條 領置物ハ其品目及ヒ數量ヲ領置金品基帳ニ記載シ領置品基帳ニハ典獄之ニ證印ス可シ

第四百十一條 金錢ニ非サル領置物ハ本人ノ請求ニ因リ之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スルコトヲ得

領置ヲ爲サス又ハ領置ヲ解キタル物ニ付キ本人相當ノ處分ヲ爲ササルトキハ請求ナキトキト雖モ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第四百十二條 在監者ニハ新聞紙、時事ノ論說ヲ記載シタル文書及ヒ監獄ノ紀律ヲ害ス可キ物ノ差入ヲ爲スコトヲ得

第四百十三條 受刑者ニハ法令其他典獄ニ於テ有益ト認ムル文書、筆墨紙、印紙、郵便切手、郵便葉書、金錢及ヒ司法大臣ニ於テ認可シタル物ヲ除外差入ヲ爲スコトヲ得

第四百十四條 刑事被告人ニハ前條ニ掲ケタル物ノ外衣類臥具、飲食物手巾及ヒ履物ニ限リ差入ヲ爲スコトヲ得

第四百十五條 衣類臥具ノ差入ニ付テハ第九十二條、飲食物ノ差入ニ付テハ第九十八條ノ規定ヲ準用ス

第四百十六條 在監者ニ差入ヲ爲サンコトヲ請フ者アルトキハ其氏名、身分、職業及ヒ住所ヲ調査ス可シ

第四百十七條 在監者ニ宛テ送致シ來リタル物及ヒ差入ヲ爲シタル物ハ看守長立會ノ上看守之ヲ檢査ス可シ

飲食物ノ檢査ニハ監獄醫ヲシテ立會ハシム可シ

第四百十八條 自辨又ハ差入ヲ許シタル物ハ本人ニ交付セザルトキト雖モ携帶物ノ例ニ依リ領置ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第四百十九條 飲食物ニ付テハ領置ニ關スル規定ヲ適用セス

第四百二十條 没入又ハ廢棄ノ處分ヲ爲シタルトキハ没入廢棄簿ニ品目、數量並ニ處分ヲ爲シタル理由及ヒ年月日ヲ記載シ典獄之ニ證印ス可シ

第四百二十一條 死亡者ノ遺留物ノ交付ヲ受ク可キ者遺地ニ在ルトキハ其請求ニ因リ遺留物ヲ賣却シテ代金ヲ送付スルコトヲ得但運送費ハ請求者ノ負擔トス

第十一章 賞罰

第四百二十二條 賞遇ヲ爲スコキ者ニハ賞表ヲ付與ス可シ

賞表ハ加ヘテ三箇ヲ超ユルコトヲ得

第四百二十三條 賞表ハ曲尺長二寸幅一寸ノ白色ノ布ヲ用井上衣ノ左袖肩背間ノ表面ニ縫着セシム可シ

第四百二十四條 賞遇ハ左ノ如シ

一 第二百二十三條ニ定メタル接見ノ度數及ヒ第二百二十九條ニ定メタル信書發受ノ度數ヲ一回宛増加スルコト

二 褌衣ノ自辨ヲ許スコト

三 作業ノ變更ヲ許スコト

四 第七十一條ニ依ル作業賞與金計算高ヲ賞表一箇毎二十分ノ二宛

增加スルコト

五 特別ノ糧食及ヒ飲料ヲ給與スルコト

第四百五十五條 賞遇ヲ廢止セラレタル者ニハ賞表ヲ遞奪シ賞遇ヲ停止セラレタル者ニハ其期間賞表ヲ除去ス可シ

第四百五十六條 在監者左ノ各號ニ該ル行爲アルトキハ五十錢以下ノ賞與ヲ給スルコトヲ得

一 在監者ノ逃走セントスルヲ密告シタルトキ

二 人命ヲ救護シ又ハ在監者ノ逃走セントスル者ヲ捕テシタルトキ

三 天災事變又ハ傳染病流行ノ際監獄ノ用務ニ服シ功勞アリタルトキ

第四百五十七條 減食ハ本人ニ給與スル糧食ノ一回ノ分量ヲ二分ノ一乃至三分ノ一二減ス

第四百五十八條 懲罰事犯ニ付キ取調中ノ者ハ之ヲ獨居拘禁ニ付シ又ハ夜間獨居監房ニ拘禁ス可シ

第四百五十九條 懲罰ノ言渡ハ典獄之ヲ爲スコシ

第四百六十條 懲罰ハ言渡ノ後直ニ之ヲ執行ス可シ

戶外運動ノ停止、減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者ニ付テハ監獄醫ヲシテ本人ヲ診斷セシメ健康ニ害ナシト認メタルトキニ非サレハ懲罰ヲ執行スルコトヲ得

第四百六十一條 減食又ハ屏禁ノ執行中ニ在ル者ハ監獄醫ヲシテ時々其健康ヲ診斷セシム可シ

第四百六十二條 減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者裁判所ノ呼出ニ因リ出頭スルトキハ當日ニ限リ懲罰ノ執行ヲ停止ス可シ

前項ニ掲ケタル者ヲ移監ノ爲メ他所ニ護送スルトキハ護送ノ前日、其

當日及ヒ護送中懲罰ノ執行ヲ停止ス可シ

停止ノ日數ハ之ヲ處罰期間ニ算入セス

第四百六十三條 戶外運動ノ停止、減食又ハ屏禁ニ處セラレタル者ハ懲罰ノ執行ヲ終リタル後速ニ監獄醫ヲシテ其健康ヲ診斷セシム可シ

第四百六十四條 懲罰ニ處セラレタル者ヲ移監ニ因リ受領シタル監獄ノ典獄ハ收監後三日以内ニ懲罰ノ執行ヲ開始ス可シ

第四百六十五條 在監者護送ノ途中ニ於テ紀律違反ノ行爲アリタルトキハ本人ヲ受領シタル監獄ノ典獄ニ於テ之ヲ懲罰ニ處スルコトヲ得

第四百六十六條 在監者ノ賞罰ニ關スル事項ハ身分帳簿及ヒ懲罰簿ニ記載ス可シ

第十二章 釋放

第四百六十七條 刑期ノ終了ニ因リ釋放セラル可キ受刑者ハ釋放前三日以内獨居拘禁ニ付シ典獄自ラ釋放後ノ心得ニ付キ諭告ヲ爲スコシ

第四百六十八條 刑期ノ終了ニ因リ釋放セラル可キ受刑者ニ付テハ釋放ノ十日前述ニ釋放後ノ保護ニ關スル事項ヲ調査ス可シ

第四百六十九條 典獄ニ於テ必要アリト認メタルトキハ釋放セラル可キ者ノ性格及ヒ行狀並ニ保護ニ關スル意見ヲ本人居住地ノ警察官署、市區町村役場又ハ本人ノ保護ヲ引受ク可キ者ニ通報ス可シ

第四百七十條 釋放セラル可キ者領置物及ヒ作業賞與金ハ據メ交付ノ準備ヲ爲シ置ク可シ

第四百七十一條 釋放ノ際著用ス可キ衣類ヲ有セザル者ニハ據メ本人ノ領置金若クハ作業賞與金又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ調達セシメ若シ調達スルコト能ハサルトキハ監獄ニ於テ之ヲ給與ス可シ

第七十二條 受刑者ヲ釋放シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ典獄ハ監獄官吏ナシテ停車場又ハ乘船所迄同行セシメ本人ニ代リ其歸住地又ハ歸住地ニ最近ノ場所ニ至ル迄ノ乘車券又ハ乘船切符ヲ購求シ之ヲ本人ニ交付セシム可シ

第七十三條 受刑者ニ付假出獄ヲ許ス可キ事情アリト認ムルトキハ典獄ハ判決書及ヒ執行指揮書ノ謄本並ニ行狀録及ヒ身上調査書類ヲ添ヘ司法大臣ニ具申ス可シ

受刑者軍法會議ニ於テ處斷セラレタルモノナルトキハ前項ノ具申ハ司法大臣及ヒ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ之ヲ爲スヘシ

第七十四條 假出獄ニ因リ釋放ス可キ場合ニ於テハ一定ノ式ニ依リ典獄釋放ノ申渡ヲ爲シ本人ニ證票ヲ交付ス可シ

第七十五條 假出獄ニ因リ釋放セラレタル者刑法第二十九條第一號乃至第三號ニ該ルコトヲ知リタルトキハ典獄ハ速ニ意見ヲ具シ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

第七十六條 第七十三條及ヒ第七十四條ノ規定ハ刑法第三十條ニ依ル假出獄ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三章 死亡

第七十七條 在監者死亡シタルトキハ典獄ハ其死體ヲ檢視スヘシ病死ノ場合ニ於テハ監獄醫ハ其病名、病歴、死因及ヒ死亡ノ年月日時ヲ死亡帳ニ記載シ之ニ署名ス可シ

自殺其他變死ノ場合ニ於テハ其旨ヲ警察官署ニ通報シテ檢視ヲ受ケ檢視者及ヒ立會者ノ官氏名並ニ檢視ノ結果ヲ死亡帳ニ記載ス可シ

第七十八條 死亡者ノ病名、死因及ヒ死亡ノ年月日時ハ速ニ之ヲ死亡者ノ家族又ハ親族ニ通報ス可シ死亡者刑事被告人ナルトキハ仍ホ檢事

ニ通報ス可シ
第七十九條 受刑者ノ死體ハ死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ニ限リ解剖ノ爲メ司法大臣ニ於テ指定シタル病院、學校又ハ其他ノ公務所ニ之ヲ送付スルコトヲ得

死亡後二十四時間ヲ經テ交付ヲ請フ者ナキ場合ト雖モ其後ニ至リ交付ヲ請フ者アリト思料ス可キトキ又ハ本人カ生前ニ於テ解剖ヲ肯セサル意思ヲ表示シタルトキハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第八十條 死體ヲ請求者ニ交付シ又ハ解剖ノ爲メ送付シタルトキハ此旨ヲ死亡帳ニ記載ス可シ

第八十一條 死亡後二十四時間ヲ經テ死體ノ交付ヲ請フ者ナキトキハ第七十九條ノ場合ヲ除外之ヲ監獄ノ墓場ニ假葬ス可シ

火葬ニ付シタル場合ニ於テハ其遺骨ニ付キ亦同シ
假葬ノ場所ニハ死亡者ノ氏名及ヒ死亡ノ年月日ヲ記シタル木標ヲ立ツ可シ

第八十二條 死體又ハ遺骨ヲ合葬シタルトキハ合葬者ノ氏名及ヒ死亡ノ年月日ヲ合葬簿ニ記載シ合葬ノ場所ニハ墓標ヲ立ツ可シ
墓標ニハ石ヲ用ユ可シ

附則

本則ハ監獄法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
監獄則施行細則ハ之ヲ廢止ス但懲治人ニ關スル規定ハ當分ノ内仍ホ其效力ヲ有ス

第二節 假出獄

假出獄取締細則(明治四十一年九月十日)

第一條 假出獄ヲ許サレタル者ハ住居ノ地ヲ管轄スル警察官署ノ監督ヲ受テ

第二條 假出獄ヲ許サレタル者ヲ釋放スルトキハ監獄ハ住居ノ地ニ到着スヘキ日ヲ定メ之ヲ證票ニ記載ス可シ

假出獄ヲ許サレタル者ハ前項ニ依リ證票ニ記載セラレタル日ニ監督警察官署ニ出頭シ證票ニ證印ヲ受テ可シ若シ旅行日數ニ涉ルトキハ警察官署所在ノ地ニ宿泊シ其警察官署ニ出頭シ證印ヲ受テ可シ

第三條 假出獄ヲ許サレタル者天災、疾病其他ノ事故ニ由リ前條ノ規定ニ從フコト能ハサルトキ又ハ其處アルトキハ遲滞ナク其事由ヲ警察官署ニ具申シ證明書ヲ受テ可シ

前項ノ證明書ハ監督警察官署ニ提出シテ認印ヲ受テ可シ
第四條 監獄ノ長證票ヲ交付シタルトキハ其旨ヲ假出獄ヲ許サレタル者ノ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事、刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢事及ヒ監督警察署ニ通報ス可シ

第五條 假出獄ヲ許サレタル者三日以上十日未満ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ監督警察官署ニ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ届出ツ可シ

第六條 假出獄ヲ許サレタル者住居ヲ移轉シ又ハ十日以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シテ監督警察官署ノ許可ヲ請フ可シ

住居ノ移轉又ハ十日以上ノ旅行ヲ許可シタルトキハ監督警察官署ハ旅券ヲ交付ス可シ但監督警察官署ノ管轄區域内ニ住居ヲ移轉スル場合ハ此限ニ在ラス

第二條及ヒ第三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七條 住居ノ轉移ヲ許可シタルトキハ監督警察官署ハ其旨ヲ第四條ノ檢事、監獄並ニ新ナル住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及ヒ警察官署ニ通報スヘシ

前項ノ試合ニハ關係書類ヲ新ナル監督警察官署ニ送致ス可シ

第八條 假出獄ヲ許サレタル者帝國外ニ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由、行先地及ヒ旅行日數ヲ記載シ監督警察官署及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ヲ經由シテ司法大臣ノ許可ヲ請フ可シ

監督警察官署及ヒ監獄ハ事實ヲ調査シ意見ヲ付ス可シ
第六條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ旅行ヲ許可セラレタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 假出獄ヲ許サレタル者帝國外ノ旅行ヲ許可セラレタルトキハ監督警察官署ハ其旨ヲ第四條ノ檢事ニ通報ス可シ

第十條 假出獄ヲ許サレタル者旅行ヲ爲シタル場合ニ於テ住居ノ地ニ歸著シタルトキハ遲滞ナク監督警察官署ニ出頭シ旅券ヲ還納ス可シ

第十一條 假出獄ヲ許サレタル者ハ遲滞ナク監督警察官署ニ職業其他生計ニ關スル見込ヲ立テ之ヲ届出ツ可シ

假出獄ヲ許サレタル者ノ保護ヲ引受タル者アルトキハ前項ノ届出ニハ連署ヲ要ス
第十二條 假出獄ヲ許サレタル者ハ毎月一回監督警察官署ニ出頭シテ前條ノ事項ニ付其結果ヲ申述ス可シ
旅行ヲ許可セラレタル者同一ノ場所ニ一月以上滞在スルトキハ滞在地ヲ管轄スル警察官署ニ出頭シテ前項ノ申述ヲ爲ス可シ此場合ニ於テハ其警察官署ハ監督警察官署ニ申述ノ要旨ヲ通報スヘシ

第十三條 監督警察官署ハ假出獄ヲ許サレタル者ヲシテ正業ニ就キ善行ヲ保タシムル爲メ必要ナル訓示ヲ爲シ又ハ之カ爲メ必要ナル行爲ヲ命スルコトヲ得

第十四條 監督警察官署ハ六月毎ニ假出獄ヲ許サレタル者ノ行狀ノ其否職業ノ種別及ヒ勉否、生活ノ狀況、親族トノ關係其他ノ事項ニ付調査書ヲ作り之ヲ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス可シ

第十五條 假出獄ヲ許サレタル者ノ監督ハ證票ヲ交付シタル監獄ノ長ノ意見ヲ聽キ之ヲ託スルニ適當ナル親族、故舊、出獄人保護事業ニ從事スル者、神官、僧侶、教師又ハ他望アル者ニ委任スルコトヲ得

第十六條 檢事及ヒ警察官署ハ假出獄ヲ許サレタル者ヲ刑法第二十九條第一項ニ該ルコトヲ知リタルトキハ意見ヲ具シ司法大臣ニ申報ス可シ

第十七條 司法大臣假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ假出獄ヲ許サレタル者ノ所在ノ地若ハ住居ノ地ヲ管轄スル地方裁判所又ハ區裁判所ノ檢事又ハ其在監スル監獄ニ通報シテ其執行ヲ爲サシム

第十八條 假出獄ヲ取消サレタル者在監者ニ非サルトキハ檢事ハ刑事訴訟法 三百九十九條第二項ニ依リ逮捕狀ヲ發ス可シ

キ行狀錄ハ身分帳簿乙號行狀錄最近一年六月分ノ寫ヲ以テ之ニ充テ、身上調査書類ハ身上票及ヒ公務所其他ノ回答書ニシテ特ニ參考ト爲ル可キモノノ寫ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第一 刑期三年以上ニシテ年ト月トニ跨ルトキハ先少年ヲ月ニ換算シ之ヲ三分シ其商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

第二 刑期三年以上ニシテ年ト月トニ跨ルトキハ先少年ヲ月ニ換算シ之ヲ三分シ其商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

第三 刑期三年以上ニシテ年ト月トニ跨ルトキハ先少年ヲ月ニ換算シ之ヲ三分シ其商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

第四 刑期三年以上ニシテ年ト月トニ跨ルトキハ先少年ヲ月ニ換算シ之ヲ三分シ其商ニ相當スル期間ヲ刑期起算日ヨリ計算ス

(イ) 先少刑期起算日ヨリ年ト月トノ商ニ相當スル期間ヲ層ニ從ヒ計算シ其期間ノ最終日ヲ定ム

(ロ) 次ニ(イ)號ノ最終日ノ翌日ヲ起算點トシテ月ノ端數ヲ層ニ從ヒ計算シ其期間ニ相當スル日數ヲ算出ス

(ハ) (ロ)號ニ依リ算出シタル日數ヲ三分シテ日ノ商ヲ得、更ニ(イ)號ノ最終日ノ翌日ノ起算點トシテ日ノ商ニ相當スル期間ヲ計算シ其最終日ヲ定ム

第十九條 第十七條ノ執行ヲ爲シタル檢事又ハ監獄ハ其旨ヲ第四條ノ檢事、監督警察官署及ヒ證票ヲ交付シタル監獄ニ通報ス可シ

第二十條 假出獄ヲ許サレタル者死亡シタルトキハ監督警察官署ハ之ヲ前項ノ通報ヲ受ケタル監獄ハ其旨ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

附則 本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續 (明年四十一一年九月十八日) (司法省訓令第七號)

假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續 假出獄及ヒ假出場ニ關スル取扱手續

第一條 假出獄ノ具申書ニハ假出獄ヲ許ス可キ者ノ住所、氏名、年齢、罰名、犯數、刑名、刑期、刑期ノ起算日及ヒ終了日、假出獄條件期間經過ノ日假出獄ヲ許ス事由、出獄後ニ於ケル保護者ノ住所、氏名、職業、生活ノ狀態及保護者ト本人トノ關係ヲ記載ス可シ

第二條 假出獄ノ具申書ニハ假出獄ヲ許ス可キ者ノ住所、氏名、年齢、罪名、犯數、刑名、刑期、若ハ金額、刑期ノ起算日及ヒ終了日、假出獄ヲ許ス事由ヲ記載ス可シ

第三條 監獄法施行規則第七十二條ニ依リ假出獄ノ具申書ニ添附ス可シ

五 年ト月ト日トニ跨リ其儘三分スルコト能ハサルトキハ四號(イ)ノ例ニ準シ日數ヲ算出シ其算出シタル日數ニ刑期ノ日ヲ加ヘ之ヲ三分シテ日ノ商ヲ得、四號(ハ)ノ例ニ依リ計算ス

六 月ト日トニ跨リ又ハ日ト月トニ跨ル場合ニ於テ其儘三分スルコト能ハサルトキハ前號ノ例ニ準シ計算ス

七 刑期ニ算入ス可キ日數アルトキハ先少全刑期ノ最終日ヨリ週ヲ算入ス可キ日數ヲ控除シ其殘期ノ三分ノ一ヲ計算ス

第五條 假出獄ノ證票ハ別記第三號書式ニ依リ之ヲ作成ス可シ

第六條 假出獄又ハ假出場ニ因リ釋放シタルトキハ許可書到達ノ年月日時及ヒ釋放シタル年月日時ヲ司法大臣ニ申報ス可シ

少年法第十一條ノ適用ヲ受ケ可キ者ニ付テハ前項ノ外尙ホ同條ニ依リ刑ノ執行終ル可キ日ヲ申報スヘシ

附則 本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年司法省訓令第二號假出獄證票ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

昭和三年一月一日印刷
昭和三年一月廿日發行

加除 現行法令輯覽 付
自在 (非賣品)

編輯者 河野信一
帝國行政學會長

發行者 河野喜盛一
東京府豐多摩郡野方町字新井二二五番地

印刷者 川城兼次郎
東京市赤坂區榎坂町二番地

印刷所 帝國行政學會印刷部
東京市赤坂區榎坂町二番地
電話青山 五三五六番

東京府豐多摩郡野方町新井二二五番地

發行所 帝國行政學會



